



地震に強い家はどんな家なの

屋根が軽く、かべの多い家

今は、家を建てる時に、予想される地震の大きさに、たえられるような家の作り方が法律によって決められています。しかし、昔は、はっきりしていませんでした。それで、おおかたいえることは、古い家は、いたんでいることもあり、新しい家のほうが、古い家よりも、地震に強いということです。

木造の家で、屋根に重いかわらをのせている家は、かわらの重さで、地震のゆれが大きくなります。屋根を軽くしたり、柱とはりの結合を、しっかりさせます。また、窓をせまくして、かべを多くしてある家は、地震に強いといわれています。

プレハブ住宅

鉄筋コンクリートの建物は、地震に強いといわれていますが、必ずしも安全ではありません。

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）では、鉄筋の建物や、高速道路の柱などが、こわれしました。また、外国では、1960年、モロッコの観光地、アガジルをおそった地震でこの地域のホテルや、ビジネス街の、鉄筋コンクリート造りの建物の、50～80パーセントがこわれしました。

最近、工場で作った家の部品を、現場で組み立てて作る、プレハブ住宅が、多くなりました。兵庫県南部地震のときには、プレハブ住宅が、地震にたいへん強いことが、わかりました。（監修・国司 真）

